



夜尿症



<排尿機構の確立>

生まれる前, つまり子宮の中で胎児は既に排尿をしています. 生まれてからも, 膀胱に一定の量の尿がたまると排尿をします. これを「反射性排尿」と呼びます. その後, 成長とともに膀胱容量が大きくなって行きます. 4 歳頃になると脳が発達し, 「おしっこ」を我慢できるようになります. 5 歳頃になると睡眠リズムが成人とほぼ同様になり, 昼寝をしなくなります. こうして「排尿機構」が確立されていき, 「おねしょ」をしなくなります.



<排尿の調節>

1. 脳の一部の下垂体後葉から分泌される抗利尿ホルモンには, 尿を濃くし尿量を減らす働きがあります. このホルモンの分泌が悪いと, 尿量が増えます,
2. 尿は膀胱にたまりますが, この容量が小さいと, すぐにおしっこをしたくなります.



<夜尿症の原因>

(1) 夜間睡眠中の抗利尿ホルモンの分泌リズムの障害
(2) 膀胱容量の縮小, 不安定膀胱, 過活動膀胱
(3) 冷え性などの自律神経の障害
などの複数の要因が関与して「夜尿症」が起きます.



<夜尿症の治療は何歳頃から?>

夜尿症の治療は年齢が低いほど有効率が低いため, 治療開始が早ければよいというものではありません. 6 歳以降が治療開始の目安です.



<夜尿症には 3+1 つのタイプがあります.>

1. 多尿型: 抗利尿ホルモンの分泌量が少なく, 尿が薄くなって, 尿量が増えてしまうタイプ.
(尿の濃さにより, さらに 1-a. 低浸透圧型と 1-b. 正常浸透圧型に分類されます.)
2. 膀胱型: 膀胱容量が小さく, 長い間おしっこを我慢できないタイプ.
3. 混合型: 上記の 1+2 のタイプ.
(4. 解離型: 膀胱容量は年齢相応, 夜間尿量も多くはないのに, 夜尿を生じてしまうタイプ.)

タイプによって治療薬が異なります. どのタイプかを判断するために検査が必要です.